

書評

《理学療法 NAVI》エキスパート直伝 運動器の機能破綻はこう診てこう治す [Web 動画付]

福井 勉(編)

B5 判・184 頁

定価：本体 3,500 円＋税

医学書院刊，2019

親切でユニークな工夫満載の エキスパートによる直伝書

[評者] 吉尾雅春 千里リハビリテーション病院

多くの方はご存じであろうと思うが、私は脳卒中に代表される中枢神経障害をもつ患者の理学療法をより専門にしている。とはいえ、回復期リハビリテーション病棟のみで構成される病院に勤務していることから運動器に問題をもつ入院患者も相応に存在する。多重骨折や頭部外傷を伴う骨折例も多く、人工股関節では回復過程で難渋する事例が多い。その問題に直面したときに長年、札幌医科大学解剖学教室で学んださまざまな知識や思考過程が生かされている。

運動器の障害をもつ患者の理学療法は脳卒中のそれとは比較にならないほど科学的であると受け止めているが、時に私には理解できないような説明がなされることがある。それは評価においても運動療法においても存在する。一番大きな原因として私自身に十分な経験がないことが挙げられる。書籍で矢印を用いて運動方向などを細かく図説されていてもリアルに理解することはかなり難しいことである。

この直伝はそうそうたるエキスパートの理学療法士たちによ

るものであり、それらの内容には自ずと重みもある。確たる知識があって、患者を視て、観て、触って、診ているからこそ書ける内容であろう。とはいえ、微妙な力で細かい動きやタイミングを伴うような評価を文字や矢印で解説するには限界もある。いや、それは不可能であろう。それを一気に解決したのが QR コードおよび URL による Web 動画である。動画は 76 点にも及ぶ。代表的な冠のついた評価法はもちろんのこと、図解では限界がありそのような細かい動きやタイミングが実によくわかる。やはり動きは動きで説明したほうがよいということである。

本書は 11 名のエキスパートの解説で構成されるが、そのタイトルが実にわかりやすい。決して難しい言葉を使わず、とても臨床的である。その著者を見ると納得、である。

それぞれの章は症候の説明に始まり、機能解剖、機能破綻と構造破綻の関係性、どう評価するか、どう治療するか、という流れになっている。本書に登場するエキスパートの真骨頂は「機能破

綻と構造破綻」の解説にある。この理解ができなければ漫然とした理学療法擬きが日々繰り返されることになる。ここに注目、という項である。

読者のための細かい工夫も多くみられる。重要な箇所には下線を施してあり、自ずと目を向ける。また、「どう評価するか」という項では特に重要と思われる小見出しに[最重要]と付記してある。さらに、評価のまとめとして 3 項目程度の「評価のポイント」とエキスパートからのアドバイスが提示されている。

「どう治療するか」の項はとてもユニークである。エキスパートなりに治療すべき項目を挙げて解説しているが、それぞれに[有効★]、[技あり★★]、[一本★★★★]と表示して有効性や重要性を伝えようとしている。評価と同じように、ここでも治療のポイントとエキスパートからのアドバイスで締めくくっている。

とても親切でユニークで読みやすく、それでいて臨床的で十分重みのある書籍に出合えた。

